

日 時	2026 年 1 月 24 日(土) 13 時 30 分 ～ 15 時 30 分
場 所	板橋区立若木小学校 2F 多目的室
出席者	11 名(【地域委員】9 名、【行政委員 2 名])
欠席者	2 名
傍聴人	【あいキッズ職員】1 名、【若木小学校教職員】9 名

議事内容

1 委員長挨拶

委員長は、本会にあいキッズ職員ならびに若木小学校教職員が出席していることを紹介し、オブザーバーとしての参加を承認した。

委員長は挨拶に代えて、次の 6 点を述べた。

(1) 土曜授業プランについて

本日も PTA 本部役員を中心に、受付等の運営に尽力いただいたことに感謝する。

また、学校開放協力会(寺子屋)の協力により「チャオズウインドアンサンブル」を招き、子どもたちにとって有意義で楽しいひとときを設定していただいたことについても、謝意を述べた。

(2) 学級活動の日について

本日、本校では「いたばし学級活動の日」として、各学級で学級活動の授業が行われた。ある学級を参観したところ、子どもたちが学級で楽しめるイベントについて、話し合いを通して検討していた。なお当該学級では、イベントで実施する内容の個数をあらかじめ定めない方針であった。個数を決めてしまうと、その数に合わせようとして話し合いが円滑に進まなくなる場合がある、という理由によるものである。

授業の様子から、担任が約一年間かけて学級を丁寧に耕してきた成果の一端を垣間見ることができた。また、担任による学級の統率力が、子どもたちが安心して発言できる雰囲気づくりに大きく寄与していると感じられた。おそらく他の学級においても、同様に日々の積み重ねの成果が見られたのではないかと。

参観者には、ぜひアンケート等を通じて学校へフィードバックを行っていただきたい。「学校・地域・保護者が協力し、子どもたちが主体的に考え、実践していく取組」である「いたばし学級活動の日」の目的が、今後さらに充実していくことを期待したい。

(3) 家庭学習の進め方の改善について

先日、校長より保護者宛に「3 学期からの家庭学習の進め方について(お願い)(2027 年 1 月 8 日付)」が案内された。そこでは、「本校では児童の『主体的に学ぶ力』を育むため、3 学期より 2 年生以上の家庭学習(宿題)において、『A 一律課題コース』『B 自主選択コース』を選択できるようにする」と示されていた。

本年度第 4 回 CS 委員会でも述べたとおり、「本校の学力データはばらつきが大きい傾向にあり、特に学力差の大きい児童に対して、どのような指導が適切かを考える必要がある」ことが課題として指摘されていた。

<https://www.ita.ed.jp/1310267/download/document/17492374>

今回の取組は、この課題に学校として正面から向き合った第一歩と捉えることができる。子どもの教育は第一義的には家庭にある。これまで一律の課題を課してきた学校が、校長の言葉を借りれば「当たり前」を見直し、改善に踏み出した点は大いに評価したい。

一方で、家庭によっては、子どもにどのような学習課題が適切か判断に迷う場合もある。そのため、従来の一律の宿題を残しつつ、家庭の判断で選択できる形としてソフトランディングを図った配慮も適切である。

また、放課後の過ごし方は家庭ごとに様々であり、習い事や学習塾に通う児童も少なくない。これら習い事や学習塾で出される課題についても、学校が示した「自主選択コース」に該当するとの説明を校長から受けている。各家庭において、この新たな家庭学習の進め方を十分に活用し、子ども一人一人に合った学びを大切にしていきたい。

(4) 生成 AI について

本年度第 3 回 CS 委員会において、校長より「中台中学校からの協力依頼を受け、生成 AI を校務改善に活用する事業に若木小学校も参加している」との説明があった。

<https://www.ita.ed.jp/1310267/download/document/14022321>

教育の情報化には、「情報教育」「教科指導における ICT 活用」「校務の情報化」という三つの側面があるが、今回の生成 AI 活用は「校務の情報化」を主眼とした取組であるとのことであった。

一方、小職が先日、区外の情報教育部による授業を参観した際には、「教科指導における ICT 活用」が実践されており、こうした観点についても今後検討していく余地があると感じた。

また、10 月 15 日に行われた学びのエリア 3 校合同 CS 委員会では、小中学校の教員が分科会に分かれて研修を行い、その場に CS 委員も立ち会った。その中で、教育用 Gemini が小学校段階でも活用可能になったとの説明があった。最終的には教育委員会および学校の判断によるが、今後の活用を見据え、段階的に準備を進めていくことが望ましい。

ただし、児童に生成 AI を使用させる際の最大の課題は、不適切利用への懸念である。したがって、まずは教員自身が研修を重ね、理解を深めていくことが重要である。そこで現在、「みんなのコード」では無償の研修会が案内されていることから、その情報をこの場を借りて学校に紹介した。さらに「みんなのコード」では、協賛企業の協力により、子ども向け生成 AI の活用についても案内している。不適切な指示文には回答しない仕組みや、指示内容を教師側で確認できる機能など、教育利用に十分配慮した設計がなされており、今後の選択肢として有用性が高いと考えられる。

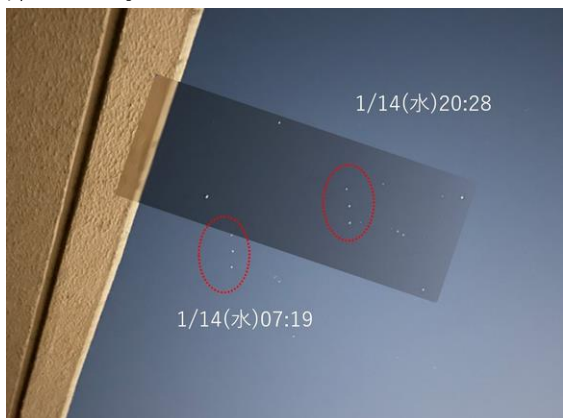
<https://code.or.jp/news/20250213/>

なお、教育利用においては、生成された情報が適切かどうか、その信ぴょう性を確認する力を育てる指導も不可欠である。信ぴょう性の判断が比較的容易なものと、そうでないものがあることを踏まえ、判断しやすい場面での活用実践を、今後教員が授業研究の中で模索していくことが重要である。例えば校長は、本年度第 2 回 CS 委員会において「観察記録をタブレットで効率的に行うことで、従来の『絵で描く』評価から、成長や変化への気付きに時間を割けるようになった」と報告している。

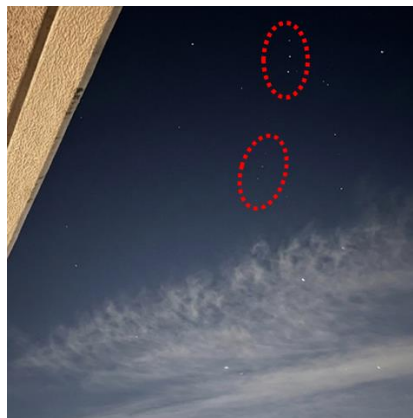
<https://www.ita.ed.jp/1310267/download/document/10590869?tm=20250526175450>

理科の観察で写真を活用することで、児童の思考により多くの時間を充てる実践が紹介された。こうしたタブレット活用を踏まえると、先日 4 年生の理科において、星座観察を夜間に家庭で行うにあたり、保護者に協力を依頼する場面があったことも想起される。家庭によっては、写真で観察記録を残す場合もあるだろう。

これを星座の動きとして画像編集し、プレゼンテーション資料にまとめることも考えられるが、児童にとっては高度な操作が求められる。そこで生成 AI を活用して、こうした作業を補助することも一案である。タブレット操作の負担を軽減しつつ、情報の信ぴょう性については自ら観察した事実と照らし合わせて判断できるため、学習としての妥当性も確保できる。活用方法は、まさにアイデア次第である。



児童が加工する例



生成 AI が加工する例¹

(5) 自転車ナビマークについて

学校安全に関する区長要望の実現について報告する。

2024 年度 CS 委員会第 4 回での議論を経て、第 5 回 CS 委員会だよりにて周知したとおり、「1(1)④」に関する要望として、当時の CS 委員長、警察署協議会長、PTA 会長、町会長、交通部長の連名により、「歩車分離を促す標示」について要請を行った。その結果、2025 年 1 月 17 日(土)に該当箇所での整備が確認された。

<https://www.ita.ed.jp/1310267/download/document/18122520>

¹ 児童が加工する例と生成 AI が加工する例の画像撮影日は異なる。今回、複数の生成 AI を活用したが、この図は Copilot を利用したものである。複数の生成 AI で指示文により抽出し、出てきた結果と自分自身が観察した結果を比較することで、子ども自らが情報の信ぴょう性を確認できる生成 AI の教育活用例である。

さらに翌週には反対車線についても自転車ナビマークが整備され、本校児童の歩道歩行時の安全確保、ならびに地域全体の交通安全環境が、また一歩前進したと考えられる。本件にご尽力いただいた関係者の皆様に、改めて感謝申し上げます。



マーク整備前→→→→→→→自転車ナビマーク整備後

(6) CS 表彰の検討について

情報活用能力の育成を目的として、今年度は比較的取り組みやすいキーボード入力練習サイトの導入を図った。この点については、本年度第 3 回および第 4 回 CS 委員会で報告している。

年度末を迎え、最高ランクに到達している児童も見られることから、こうした児童に対し、何らかの表彰を行ってはどうかと考える。今後、委員の意向を確認した上で、CS 委員会として表彰するのか、学校として表彰するのかなど、具体的な方法を検討したい。良いロールモデルを適切に価値付けることは、他の児童への波及効果も期待できる。

今回実現するようであれば、今後も CS 委員会から表彰する取組を広げていくことも検討に値するのではないかと。

2 校長より

校長は、(1)学校の活動報告、(2)学校評価アンケート結果、(3)令和 8 年度教育課程の基本方針・主な変更案(教育課程届を含む)について説明した。

2-1 活動報告(学習・行事・生活)

(1)学習面：授業改善・学びの可視化

- **思考ツールの活用**：学年に応じて「ピラミッドチャート」「X チャート」等を用い、整理・深化を図っている。
- **授業の振り返りの重視**：「わかったこと／考えたこと／疑問に思ったこと」を書かせ、定着と内省を促している(学校評価でも重要視)。
- **校内研修(OJT)**：教員同士の学び合いを継続。算数科の校内研究が評価され、児童の思考力育成に繋がっている。次年度も指導法改善と ICT 活用を進める。

(2)ICT 端末活用

- 1 年生段階から **Google Meet** の練習を実施し、学級閉鎖等にも対応できるようにしている。
- 運動会練習では、振り付け等を動画配信し、**児童が自分のペースで反復練習**できる形をとった。
- 調べ学習では、調査対象を事前に準備・提供し、**限定された情報の中で調べてまとめる**学習設計を行った。

(3)生活・生徒指導・安全

- 3 学期の生活目標：「見通しをもって考えて行動する(相手・周囲・先を考える)」を掲げ、始業式のスタートは良好。一方で全校朝会等では引き続き指導継続が必要。
- **公園付近(中台公園周辺)での苦情**(フェンスに登る等)への対応：安全指導を実施し、オンラインでの一斉指導も行った。
- **一輪車・竹馬の利用再開**：運動委員会の要望を受け、倉庫の一輪車利用が再開(取り出しやすい配置等)。
- **学級状態の把握**：学級満足度(ハイパーQU 等)第 2 回調査結果を踏まえ、兆候の見える化と指導方針の見直しを進める。
- **不登校支援**：不登校児童の登校再開。スマイルルーム等の支援、関係者の継続的対応。

(4)行事・地域連携(活動の報告)

- 学習・地域連携：地域関係者を講師に招き、地域課題等の話を聞く機会を設定。
- 主な行事：合同 CS(教員の分科会に CS 委員も参加)、常盤山部屋来校、教育科学館移動教室(電気実験)、運動会(全校競技の工夫／教員のチームワーク)、ドッジボール大会、デフリンピック関連(手話拍手等)、PTA まつり(教員バンド)、寺子屋クリスマスコンサート等。

- ・ 地域清掃：ごみ拾い競争等を実施した一方、トンブ不足により「素手で回収」していた点について住民から意見があった。実際は軍手を着用させているが、今後の検討課題として共有。

2-2 学校評価アンケート(結果の共有)

- ・ 児童・保護者アンケート結果を共有。前回(7月等)との比較で、項目によっては肯定回答に減少傾向が見られる。
- ・ 特に「挨拶」や「友達を傷つける言動」などで低下が見られ、年度後半の意欲低下や生活面の課題として、今後の手立てが必要である。しかし、前年度と比較すると差は見られないとも見られることもできる。

2-3 令和8年度 教育課程の基本方針(変更案・教育課程届)

(1)基本方針

- ・ 令和8年度の教育課程編成に向け、従来の「共汗(みんなでする)」・継続(続けてする)・徹底(とことんする)」に「更新(アップデート)」を加える。
- ・ 「継承すべき成果は継承しつつ、改善を加える(サクセッションのアップデート)」を教職員で意識して進める。

(2)主な変更案(来年度の方向性)

- ・ 行事日程の再編：運動会を10月末、文化的行事を11月末へ(今年度と順序を入れ替え)。文化的行事は11月下旬(土)予定。
- ・ 学力調査(学校独自)：3年生から国語・算数の実施を検討。候補として図書文化社のNRT・CRT、将来的には「すらら」等との連動も視野。費用負担は検討事項。
- ・ 家庭学習(選択制)の本格化準備：3学期から一部で試行中。段階的指導により自律的選択へ繋げ、来年度の本格実施を見据えて状況確認を継続。
- ・ 縦割り班活動の再設計：「縦割り班遠足」を「縦割り班まつり(校内実施)」へ。班の更新等は児童アンケートを踏まえる。
- ・ さくら草の栽培：児童主体で種から育てる活動に挑戦。

(3)教育課程届と授業時数(事務・制度面)

- ・ 区の方針(MIRAI SCHOOL いたばし)や近隣校との関係を踏まえ教育課程届を修正し、2月8日までにCS委員会承認→教育委員会へ提出、その後修正を重ねる流れ。
- ・ 始業式の調整、開校記念日が次年度平日であることに伴い、授業時数が減少する学年がある。余剰時数として各学年10時間程度、工夫により今後確保した上で、届け出を予定している。
- ・ 水泳授業：猛暑・雨で計画通り実施できない実態がある。令和7年度は、夏休みの水泳分を正課に組み込んだが、今後はこれらを収束させる予定である。CS委員からは、そもそも学校で水泳指導が必要なのかという意見もあった。将来的には、授業時数の再設計や代替策(体育館プール利用等)に検討余地。
- ・ 日本語指導：対象児童は13～14人程度。区の初期指導、通級、ポケットーク(3台)活用、同時翻訳トライアル申請等で対応。

3 熟議「令和8年度教育課程編成に向けて」(質疑・意見・論点整理)

熟議では、校長説明を踏まえ、来年度の教育課程(行事日程、学力調査、家庭学習、授業時数、生活指導、地域連携等)について、委員やオブザーバーから質問・意見・提案が出された。主な論点は以下のとおり。

3-1 教育課程の変更案に対する確認・質問(具体の詰め)

(1)学力調査(3年生から)

- ・ 「どの調査を用いるかが早めに分かった方がよい」という観点で確認があり、候補(NRT・CRT、すらら連動等)と費用負担が論点化。
- ・ 「余剰時数をどの教科に充てるか」「学年実態(現6年生の状況等)を踏まえた必要性」など、実施目的と運用設計の整理が求められた。
- ・ 「家庭に知らせ、理解してもらうことも重要」という意見が出た(結果のフィードバックの在り方)。
- ・ 教員意見について委員から確認があったが、児童の実態を掴むには必要との意見が複数寄せられた。

(2)家庭学習(選択制・段階的指導)

- ・ 高学年で自学自習を増やす方針について、実施の徹底と教員間連携が重要との指摘。
- ・ 「クラスにより取組に差が出ないように、共通理解の下で進める必要」が示された。

(3)行事再編(運動会・文化的行事、縦割り班活動)

- ・ 文化的行事の会場・実施場所等の確認があり、校内運用(縦割り班まつりへの円滑な移行)の段取り・説明の必要性が論点となった。
- ・ 行事入替が「次に繋がる」よう、教育的意図の共有を求める声。

(4)さくら草栽培

- ・ 児童主体での栽培に賛同が出る一方、サポーターや散水等の運用、費用面の確認が論点となった。

3-2 授業時数・水泳・学級閉鎖等「現実的制約」への対応

- ・ 授業日数減や行事調整により余剰時数が逼迫し、不足分をどう工夫して確保するかが中心論点となった(特に3年生が基準ギリギリとの共有)。
- ・ 水泳授業は暑さ等で実施困難があり、時数設定の見直し、代替案(体育館プールのクーポン等)が提案された。
- ・ 学級閉鎖等への対応可能性(余剰の確保、オンライン活用)が確認された。

3-3 生活指導・学校課題(データと実感のすり合わせ)

- ・ 学校評価アンケートや学級満足度調査を踏まえ、挨拶・言動等の低下傾向、言葉遣いの荒れ等が課題として共有された。この点については、学校の指導だけでなく、各家庭での指導も重要であることが確認された。
- ・ 並び方(男女別/混合)について、他校事例(混合へ移行している学校が多い、性自認への配慮等)も踏まえ、来年度の方向性検討が必要とされた。
- ・ 不登校支援、スマイルルーム等の取組が評価され、継続の重要性が確認された。

3-4 学習活動の質(数値化できる成果/できない成果の両立)

- ・ 学力・体力の「数値」で見える課題(体力テスト分析、筋力の弱さ等)への手立てに加え、投げ方の事前指導など具体提案が出た。
- ・ 一方で、展覧会等で得られる「心の豊かさ」「感性」といった数値化できない能力を小学校段階で育てる意見もあった。
- ・ 本日の寺子屋事業にもあった音楽(生演奏)等の経験価値についても、教育的効果の観点から継続・工夫の意見が出た。

3-5 地域連携・行事運営上の課題(改善点の明確化)

- ・ 地域清掃での住民からの指摘(素手での回収等)を踏まえ、来年度は安全・衛生・説明責任を含めた検討が必要という整理。ただし、実際は素手ではなく軍手着用をしていることから、例えば落ち葉などは軍手。ゴミ類などはトングを活用するなど含めて確認するなど検討。
- ・ 海外にルーツをもつ児童が多い状況を踏まえ、例えば PTA 祭りにおいて、多文化交流企画(ブース等)提案が出された。
- ・ 検定(漢検・数検)活用や表彰制度による意欲喚起について、来年度改めて議論することを確認。なお、CS 委員会で推奨した情報活用能力の育成のためのツールである「キーボー島」については、全てクリアした児童について表彰する方向性を確認した。

3-6 総括(会の評価)

- ・ 教員間の連携・学校の雰囲気改善に対して、複数委員から肯定的評価が示された。

4 校長が謝辞を述べた。

CS 委員会の関与が授業改善・教職員のパフォーマンス向上に繋がっているという謝意が共有された。

CS 委員会年間予定について

年間予定を以下のとおりである。

第1回 令和7年04月07日(月)13:50～15:30

第2回 令和7年05月17日(土)13:30～15:00 ※午前土曜授業

第3回 令和7年07月10日(木)15:15～16:45 ※前期評価について

第4回 令和7年10月04日(土)13:30～15:00 ※学校評価 ※AM 展覧会

第5回 令和7年10月15日(水)13:30～ ※学びのエリア合同

第6回 令和8年01月24日(土)13:30～15:00 ※次年度の経営方針について承認確認

※AM 土曜授業

配布資料	【学校側配布資料】 (1) 令和 7 年度 第 6 回若木小コミュニティ・スクール委員会 次第 (2) 令和 7 年度 第 6 回 CS 委員会校長説明スライドハンズアウト (3) 令和 7 年度 学校評価児童アンケート結果 (4) 令和 7 年度 学校評価保護者アンケート結果 (5) 令和 8 年度教育課程編成の方針について(12/23) (6) 令和 8 年度教育課程届について(届) 案		
作成者	CS委員長	確認者	校長